

(1) ソフト事業の推進方策

第1ステップ 計画を固める(計画の具体化の検討)

基本計画・実施計画の策定
 散居村保全委員会・地域懇話会における施策の検討・提言
 ・中核施設、地域拠点のあり方、活動内容の検討
 ・屋敷林、伝統的家屋、景観の3つの部会による個々の施策の検討
 ・住民活動のあり方、内容の検討
 現状の把握・分析
 ・アンケートの実施
 普及・啓発
 ・シンポジウム等の実施、パンフレット・HPの作成 等

第2ステップ 様々な準備をする(モデル事業と住民活動の場づくり)

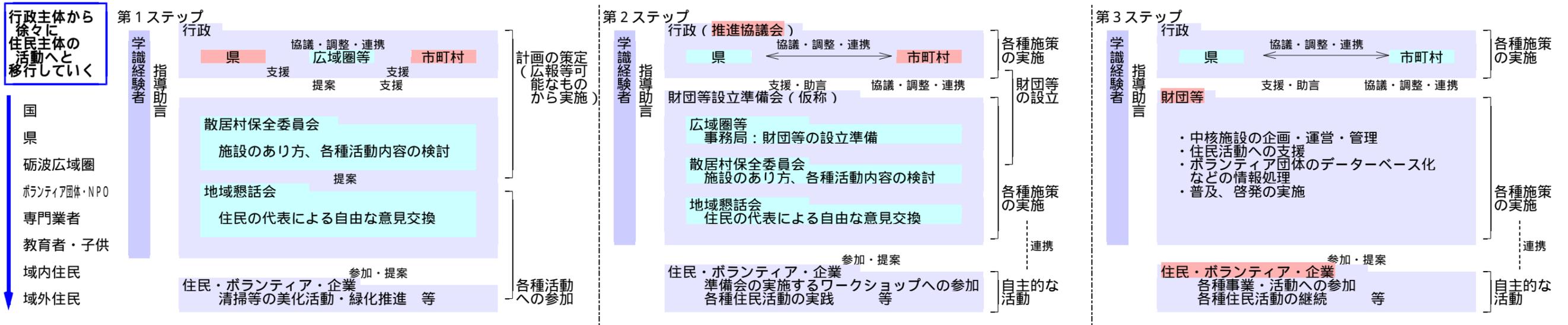
計画の実施
 中核施設・地域拠点の詳細設計・施行
 モデル地区における各種事業や取り組み強化し、他の地区へ波及的に広げる
 住民活動の実施に向けた具体的な提案・活動
 ・田園空間保全・活用のための活動等の支援
 農村振興整備支援事業の活用
 緑と水の森林基金事業の活用
 歴史・文化継承住宅融資制度の活用 等
 ・散居村保全委員会の提案に基づく住民活動の仕組みづくり
 緑化や修景のための推奨値の検討・策定
 アドプトシステム導入の検討 等
 財団等の設立準備
 (住民、市町村、県、企業が協力し、活動できる団体とする)
 普及・啓発
 ・シンポジウム等の実施、パンフレット・HPの作成 等

第3ステップ 未来の散居村に向かう(となみ野全体での施策の展開)

となみ野全域における景観の保全

 住民や財団等を中心とした住民内発型の各種活動の継続
 ・中核施設、地域拠点を活用した事業や活動
 ・散居村保全委員会等の住民から提案された各種事業の継続
 ・緑化や修景のための推奨値の普及
 ・普及・啓発事業の継続
 (となみ野だけでなく県下全域、国内、海外への情報発信)

(2) ソフト事業の推進体制



(3) ソフト事業の内容

ソフト事業の施策			
屋敷林関係	伝統的家屋関係	景観関係	普及啓発関係
維持・保全を担う人材の発掘・登録・育成、組織づくり ボランティアや専門業者の発掘・整理、育成(研修)登録、組織づくり交流の場、情報の提供	散居21プランの策定 ・住みごこちを向上させた新伝統家屋モデル、具体的な改修方法の検討 ・伝統的家屋の維持補修への支援 ・伝統的家屋の移築作業を利用した学習会の開催 ・建築関係事業者とのワークショップ等改修方法の普及 ・空き屋情報の把握と民泊施設への利用等活用策の検討	景観保全のための方策 ・景観アドバイザー制度の検討(派遣及び機関の設置) ・地域協定など地域ぐるみでの景観づくりの促進方策の検討 ・公共施設の緑化の推進 ・看板や緑化など景観への配慮に関する企業活動の参画促進 ・地域拠点の整備・管理・活用について住民参加のワークショップを開催 ・地域拠点において花見の会や蛍の鑑賞会など四季折々のイベントを開催 ・散策路(フットパス)を活用した中核施設や地域拠点と地域資源を結ぶマップの作成	普及・啓発活動 ・各公報媒体による情報発信 ・講演会、シンポジウムなどの実施 ・散居村や農業にふれる体験学習会 ・チューリップ畑等を利用した体験農園や市民農園の設置 ・既存のイベントなどと連携し、散居村の保全・活用に関する普及・啓発 ・散居村に育まれた各種の生活文化や芸術文化などをネットワーク化し、となみ野の素晴らしさをPR ・となみ野の郷土芸能や郷土料理を通じて散居村や農業にふれる体験学習会の開催 ・周辺施設と連携し、地域拠点を活用した散居風景保全意識の普及・啓発
屋敷林の維持保全のためのサポートシステムの検討 ・住民からの相談窓口の設置 ・維持管理マニュアルの作成 ・管理技術のデータベースの構築 ・保全登録された屋敷林への苗木の配布等の支援 ・ボランティアや専門業者の派遣システムの構築 ・ボランティアポイント制度等活動を継続するためのしくみづくり	伝統的家屋の活用や文献資料・民具等の整理・活用 ・歴史・文化ボランティアの発掘・登録 ・昔の農機具や地域特産品の農機具の展示 ・伝統行事を通じて散居村や地域の歴史を普及・啓発 ・となみ野を潤す水の大切さを子供たちに伝える学習会 ・散居村の保全活用についての学習会を地域拠点で実施 ・小中学生を対象としたふるさとの文化に関する講演会		